

広報

環境カウンセラーちば

第63号

特定非営利活動法人
環境カウンセラー
千葉県協議会

環境カウンセラーは、環境省により認定された環境に関する専門家です。
地球温暖化対策、廃棄物対策、環境教育・環境学習、環境経営など、お気軽にご相談下さい。

第22回通常総会および総会特別講演会を開催

2024年5月25日(土)に、千葉商工会議所第2ホールにおいて「第22回通常総会」を開催しました。
総会議事に先立ち、千葉大学名誉教授近藤昭彦先生を講師にお迎えし、「総会特別講演会(第30回環境セミナー)」をEC千葉の会員以外にも公開して実施しました。

環境公開講座：総会特別講演会(第30回環境セミナー)

演題：「人・自然・社会の関係を整える職業科学と市民科学」
講師：千葉大学名誉教授 近藤昭彦氏
開催：2024年5月25日(土) 13:30~15:10、千葉商工会議所14階第2ホール
参加者：EC千葉会員25名、一般20名(合計45名)



環境問題は、社会や市民を巻き込んで、今や解決の難しいことが多い。例えば、
◇地球温暖化は気候変動激化となって、災害等から地域社会を守る対策が要求されている。
◇原発の処理水海洋放出問題は、科学的説明と地域社会の理解が必要になっている。
これらの難しい問題の解決に、科学的理路整然とした説明(職業科学)だけでは社会(市民)にわかってもらえないのに対し、市民が担い手となる(ローカル市民科学)が重要と主張している近藤昭彦千葉大学名誉教授をお招きしての講演は、時に機を得たものになりました。

近藤先生が一番お話したかったことは、「人・自然・社会の中で”環境等の問題解決”を如何にして行うか」であったかと思えます。

近藤先生は、千葉大学で地学を学ばれ(1980卒)、筑波大学において「地球科学」を専攻して理学博士を取得し(1985)、筑波大・東京都立大での講師を経て1995年千葉大学に戻り、環境リモートセンシング研究センター教授、2023年3月に定年退官された。ご専門は、「地理学」、「水文学」で、環境に深く関係している。
[(注)水文学：スイカク 地球上の水の循環、地球科学]

近藤先生は、以上のようなご経歴で、地球科学の専門家の立場から地域環境問題・社会問題まで広く携わられてきましたが、定年退官を機に、職業としての科学「職業科学」から引退し、社会・市民の中に入って活動する「ローカル市民科学」による問題解決に力を入れておられます。

近藤先生が話されている「問題解決」は、下記のようなになります。

- ① その問題に関わる全ての関係者が「問題の共有」、「解決の共有」を持つことが必要。
- ② 問題の解決には「合意形成」が必要で、それには3つの観点、「共感」・「理念」・「合理性」が必須。
[共感：問題を我がこと化する、理念：めざす有り方を共有、合理性：科学的合理性]
- ③ 「職業科学」と「ローカル市民科学」の協力体制が重要、それには【科学的合理性が大事】
[ローカル市民科学者は、職業科学者の内容を熟知し、市民等多くの関係者に論理的提言を行うことが必要]

最後に、今回の講演で学んだこと、私たちが今後の活動において考えて行くべきことは、「環境問題等の解決には「ローカル市民科学」が重要であり、それには環境カウンセラーの役割が重要であり、環境カウンセラーにはこの課題に挑戦することが望まれていると言えます。

なお、近藤先生のHP「近藤昭彦の部屋」には参考になる箇所が多く、「自然地理学」は必須です。

(地球温暖化対策センター 副センター長 橋本正 記)

(総会特別講演会続き)



講演スライドは、<http://www.llsci.net/aki/index.html>
(「近藤明彦の部屋」⇒「隠者の部屋」) に公開されています。

<近藤先生講演の具体的内容>

近藤先生には、「人・自然・社会の中であって、難解な環境問題等に対して、どう対処するか」という課題について、環境カウンセラー・市民等に対する非常に良い示唆をいただきました。

その内容を講演スライド等から要約してみます。

1) 先ず「環境の本質」は、地理学の立場から5つに認識される ⇒ 問題解決時に考えること。

- ①多様性(様々な要素からなる) ②関係性(要素間の関係) ③空間性(広がりの中で生起)
- ④時間性(歴史によって形成) ⑤階層性(スケールによって観点が異なる)

2) 「環境問題等の解決の難しさ」への対応

- ・「問題」とは、特定地域における人・自然・社会の関係における問題
- ・「科学(職業科学)」は、科学的合理性・真理追求で、上記問題解決難しい。
- ・そこで「ローカル市民科学者」が必要になる。

問題範囲の地域・自然・人・社会に精通し、科学的合理性によって、問題の関係者全てに「共感」・「理念」・「合理性」で受け容れられる解決を行う。

3) 「ローカル市民科学者」

- ・環境問題は地域(ローカル)の問題、従って、ローカル市民科学、地域のため総合的取組が要求される。
- ・地域で目の前にある問題に取り組む、そして地域と地域が連携する、地域問題集めてより上位へ。
⇒現実に対峙する問題(地球温暖化問題等)への解決へ。これこそ環境カウンセラーの役目かも
- ・ローカル市民科学者は、オルタナティブ科学者と言われ、通常の科学者と異なって問題解決への専門的な知識・技術を持って、全体論的・システム論的アプローチをして解決する。

4) 「問題解決」難しい事例、各所に

- ①「公害問題等」で十分な「対話」がなかった(2021, 2024でも)。
- ② 印旛沼、きれいな水取り戻す行動(2001~2030年目標へ)。
- ③ 地球温暖化問題、スケールの大きな問題で対策難航、実質不可能で気候危機対処へ。

【参考：言葉の詳細説明】

1. 地理学：人と自然の関係(環境)を主題とする学問で、「自然地理学」、「人文地理学」がある。
「自然地理学」は、海陸、山川、気候、生物等を対象とする。
「人文地理学」は、人口、都市、産業、交通、政治、文化等を対象とする。
- 2) 地学：内容は、「地球の構成と内部のエネルギー」、「地球の活動」、「地球の大気と海洋」、「地球表層の水の動きと役割」、「地球の環境と歴史」、「宇宙の構造」などであり、実質「地球科学」。
(参考書：もういちど読む 数研の高校地学)

第22回通常総会開催報告

第22回通常総会が2024年5月25日(土)に千葉商工会議所第2ホールにおいて開催され、会員総数64名に対し57名が出席し(うち、委任状提出35名)、吉田昌弘理事長が議長となり、次の議案を審議し、承認されました。会員の皆様のご協力に深く感謝いたします。

- (1) 第1号議案「2023年度事業報告ならびに決算報告」
- (2) 第2号議案「2023年度監査報告」
- (3) 第3号議案「2024年度事業計画案ならびに予算案」

なお、今回は、役員任期の途中ですので、役員(理事・監事)の改選は行われませんでした。総会後に開催された2024年6月理事会において、地球温暖化対策センターと環境学習センターのセンター長が交代されました。

地球温暖化対策センター長 (旧)阿部勲夫 ⇒(新)生野宏
環境学習センター長 (旧)佐藤ミヤ子⇒(新)捧一夫

<2023年度の活動実績>

2023年は当協議会にとって大きな節目の年で2月に設立25周年を迎えることができました。25年間にわたり、着実に活動実績を積み重ねていただいた先輩会員諸氏と当協議会の活動を外から見守り、温かく支えてきてくださった外部の関係者の方々に深く感謝申し上げます。

2023年度は、新型コロナ禍のために計画した活動を必ずしも十分には進めることができませんでしたが、その概要は以下のとおりです。

- (1) 環境保全推進事業としては、「環境セミナー」、「施設見学会」、「自然観察会」を開催しました。「環境セミナー」は、総会特別講演として一般公開で開催し、EC千葉会員でない方にも多数参加していただきました。大多喜町環境教育プログラム「わくわく探検隊～自然となかよし～」を本年度も継続開催しました。
- (2) 環境保全啓発事業としては、「エコメッセ2023 in ちば」、ふなばし環境フェア、千葉市民活動フェスタに出展・参加し、当協議会の活動を紹介しました。また、この機会にうちエコ診断の啓発と診断を実施しました。
- (3) 講師派遣事業においては、環境学習支援団体として、小・中学生、一般市民等の環境教育、環境学習への講師派遣、その他の自治体・地域での環境学習の支援に取り組みました。
- (4) 行政機関、事業者などに対する事業としては、エコアクション21特別基礎地域事務局・千葉県環境財団と連携し、「エコアクション21普及セミナー」を中心としたエコアクション21の普及活動を推進し、さらに「企業環境セミナー」、「内部監査員養成講座」を開催し、中小企業の環境経営の支援に取り組みました。
- (5) 環境問題やまちづくりに関する諸調査、政策の提案に関する事業については、環境省施策への対応、県や市等の事業に協力しつつ、当協議会の活動のベースとして、地球温暖化対策活動、廃棄物対策活動および生物多様性研究会活動を継続しました。このうち廃棄物対策活動においては、本年度から食品ロス削減活動への取り組みをはじめました。水環境対策活動においては、千葉県主催の浄化槽啓発講習は実施されなかったが、地元自治体と連携した水質保全の啓発活動として水環境体験学習会を実施しました。「うちエコ診断」については、千葉市と連携し家庭エコ診断を実施しました。
- (6) その他の事業として、広報「環境カウンセラーちば」の発行、ホームページのアップデートを継続し、環境カウンセラー全国連合会(ECU)への協力関係を従来どおり進めました。
- (7) 特記事項：

① 2024年2月20日、環境省第6回環境カウンセラー環境保全活動表彰において、EC千葉が組織として総合環境政策統括官賞～自然共生社会貢献賞(事業者部門)～受賞しました。

② 2024年3月、設立25周年記念誌「環境保全活動25年のあゆみ」を発行しました。

<2024年度の活動計画>

2024年度の活動計画は、大枠としては2023年度の活動を継続し、活動計画そのものが大きく変わることはありませんが、コロナ禍以前の活動ペースに戻ることができるものと思われまますので、活動の中身をアップデートし・より深化させていくことになります。

日本社会全体が高齢化し、10余年前のような環境活動やボランティア活動への熱気が薄れてきている現状において、当協議会においても今後の活動の活力をいかにして維持・向上していくかが大きな課題となっており、役職者と会員が一丸となって2024年度の活動に取り組むようご協力・ご支援をお願いいたします。

(事務局次長 服部達雄 記)

廃棄物処理施設見学会開催報告

「(株)TOAシブル見学会」

(廃棄物対策センター)

昨年度、廃棄物対策センターでは、活動方針を策定し、その内容について県環境生活部に訪問して、意見交換を行った際、「廃棄物処理施設の見学をするなら、単に見せていただくだけでなく考える機会を与える(株)TOAシブルのような事業者を見学するとよい」とのコメントをいただいたので、該社への見学会を6月11日に12名の参加で開催した。

該社は八千代市で廃油処理業を営まれている従業員数130名の創業74年の会社であり、「フレキシブルな発想でインポッシブルをポッシブルにする会社」として昨年、社名を変更されている。

まず本社工場の近くの運輸車庫で従業員による手作りのピオトープや花壇と養蜂の巣箱を見せていただき、自然への思いやりを感じた。

続いて、廃油処理が行われているとは信じがたいカラーコントロールされたビジブルな標識も多い本社工場を訪問し、若い男性社員と女性社員のみなさんに案内していただいた。

顧客から受け入れた各種廃油を原料とし、濾過などの処理後、再生重油とエマルジョン燃料に再生される。再資源化商品として品質管理が行われていて、廃油処理業だけでなく製造業であると感じた。また、不純物やスラッジなどは焼却炉で焼却し、廃熱ボイラーで生成するスチームを工場の加熱用に利用したり、自家発電が行われ、燃えがらなどの固形物はセメント原料にされている。まさにムダがなく再資源化率は99.7%と聞いて驚き、納得した。

2024年度の安全スローガン「慣れない、なめない、怠らない、気持ち一つで災害ゼロ」が掲出され、無災害記録を更新されている。

該社のこれからの益々の発展を期待したい。

(副センター長 國廣隆紀 記)



出展報告

「第27回ふなばし環境フェア」に参加

(事業部・水環境対策センター)

6月22日(火)、ふなばし三番瀬海浜公園・環境学習館にて開催された「第27回ふなばし環境フェア」に今年も参加した。梅雨入り頃の開催にもかかわらず当日の天候は良く、屋内外展示も無事にできた。今年の開催テーマは「触れてみよう! 船橋の環境～あなたが繋ぐ未来への一歩～」。出展は52団体、当日の来場者は約3,000人と昨年度より500人増加している。今年は従来の小学校だけでなく、新たに中学校にもポスターとチラシを配布した広報活動が功を奏した。

当会の小間では“「エコ体験」地球温暖化と生活”手書で工夫したパネル展示と共に、来場者に風船を膨らませてもらい吐く息のCO2濃度を測定。地球温暖化の現状や課題などについて一緒に考えた。子供から大人まで55名(昨年50名)の方々が興味を持って体験した。内訳は大人:23名、大学生:8名、高校生5名、中学生:2名、小学生:17名。環境活動に関心がある来場者や出展者に対し、EC千葉への新規入会の誘いをした。さらに、出展団体との情報交換も行なった。

ここ数年の傾向として、風船を膨らませられない子供や大人が増えてきている。風船との出会いが少なくなってきたことも影響しているであろうか。来年からは吐く息が簡単に取れるビニール袋の用意も検討したい。

出展団体の一つ船橋市立船橋中学校の展示小間では、昨年当協議会が実施した「水環境体験教室」の様子をパネル(写真)で紹介されていた。

(センター長 井町臣男 記)



経営に役立つ『気候変動への配慮』を目指して！

「環境マネジメントシステムに関する講座・セミナー・相談会の開催」

(環境マネジメントシステム支援センター)

昨今の急速な地球温暖化現象の進行を受けて、その対策（緩和策、適応策）が広く社会に求められている。持続可能な企業を目指すにあたっての必須の要件ともなってきた、気候変動への配慮を企業経営に盛り込むことが求められており、その具体策の一つが環境マネジメントシステム（環境経営システム）と企業経営の一体化である。

EC千葉・環境マネジメントシステム支援センター（以後、EMS支援センター）は、ISO 14001および9001、エコアクション21（以後、EA21）の普及およびより効果的な運営（経営との一体化）の手助けを目的に、講座やセミナー・無料相談会を長年開催してきました。2024年度は次の開催を計画しております。

1) ISO 14001 および 9001 内部監査員養成講座

両ISOの内部監査員養成講座を毎年2回開催しています。6月にそれぞれ1回目を開催し、今秋11月14日・15日にISO 14001を、11月26日・27日にISO 9001の講座を予定しております。

企業は組織を挙げて気候変動対策への取組みをはじめており、またはじめねばならないので、『気候変動への配慮』項目がISO規格に盛り込まれました。内部監査員養成講座においてもこの視点を盛り込んで実施します。

2) エコアクション21 普及セミナー

エコアクション21は、中小事業者向けに環境省が策定したISO 14001に代わる日本独自の環境マネジメントシステムです。二酸化素排出量や廃棄物排出量などの削減目標を自主的に設定して活動し、その過程・結果を自己評価するシステムです。環境面の効果だけでなく、取り組み姿勢が経営面にも直接的・間接的にプラスの効果を生みます。低金利融資や入札資格ポイント付与等のメリットもあります。ちなみに、本年6月の全国認証取得32社の内21社が建設業でした。

エコアクション21を有効に活用されている企業からの事例紹介も含めた普及セミナーを毎年開催しています。本年は、下図のとおり、8月28日(水)に予定しております。詳細はEC千葉ホームページを参照してください。

経営に役立つ「気候変動への配慮」を目指して！



エコアクション21普及セミナー

開催日時: 2024年8月28日(水) 13:00~17:00 (開場:12:30)

会場: 千葉商工会議所 14階 第2ホール

対象: エコアクション21の導入を検討されている事業者様
および、すでに認証・取得されている事業者様

参加費: 無料 定員: 先着45名 (ホール定員の1/2)

EA21_seminar240828.pdf
(<http://ecchiba.sakura.ne.jp>)

3) エコアクション21の無料個別相談会

千葉県のエコアクション21地域事務局である千葉県環境財団がエコアクション21に関する「無料個別相談会」を毎月(原則第二水曜日)開催しています。EMS支援センター所属の審査員が必要に応じて協力しております。

開催日時や相談申込方法については
地域事務局ホームページをご覧ください。

easoudanx.pdf
(<http://ea21-ckz.jp>)

主催: エコアクション21地域事務局 千葉県環境財団



**エコアクション21
無料個別相談会**

■開催日: 2024年7月10日(水) 8月7日(水) 9月11日(水) 10月9日(水)

★開催時刻: 13:30~16:30

この日時を原則としますが、事業者様のご都合に合わせて調整させていただきますので、まずはお電話してください。

4) 企業環境セミナー

ISO 14001の普及を目的としたセミナーとして毎年秋に開催しています。

企業に強く求められている社会課題(SDGs目標など)への貢献策としてISO 14001の活用が有効であり、この活用を支援することを目的とするセミナーを10月23日(水)に開催予定しております。

開催内容が確定しましたらEC千葉ホームページなどで案内させていただきます。

(EMS支援センター長 山畑 裕哉 記)

新入会員自己紹介

茨城 哲治（いばらき てつはる）千葉市
新入会員の茨城です。

1955年生まれで、大学では、化学工学・環境科学を学んできました。日本製鉄では、鉄鋼生産技術とともに、環境・リサイクル・省エネ関連の仕事をしてきました。また、最近9年間は、鋼材・湿式処理機械関連の会社で、下水汚泥処理の脱水機の製造販売も対応してきました。水・リサイクル・エネルギー関連で関われる分野をみだしていきたいと思っています。

間 純一（はざま よしかず）船橋市

業務用建物の冷暖房空調業務に携わり、大学教育にも参加してきました。関連分野のソフトウェア開発ではエンジニアリング AI を研究中。「事業者部門」登録者ですがそれはビジネス。「市民部門」での活動に興味があります。環境問題の主な原因は人間活動にあるとの観点で、豊かな自然と工業都市を有する千葉の場で、私なりの解答を得たいと思っています。若く柔らかな心を持った方々と活動し、少しでも理解への協力が出来れば、入会目的は叶うでしょう。

佐藤秀樹（さとう ひでき）松戸市

私は、北海道出身で、大学卒業後、国際協力機構(JICA) 青年海外協力隊員(派遣国：エクアドル、職種：野菜栽培)に参加しました。その後は、農業・農村開発コンサルティング会社や環境 NGO で勤務し、バングラデシュ、ベトナム、インドネシア等の開発途上国にて地域住民を対象とした環境保全や農業振興をテーマとした業務に従事してきました。現在は、江戸川大学社会学部にて環境学を担当している教員です。千葉県の中で、環境保全の普及活動を一緒に進めていければと思っています。どうぞよろしくお願いたします。

総務部からのお願い

2024 年度の年会費を未納の方は下記への振込でのお支払いをお願いします。

<年会費等の振込先>

郵便振替口座番号:00110-5-34692

(口座名義:NPO 法人環境カウンセラー

千葉県協議会)

ECU 総会が開催されました。

環境カウンセラー全国連合会 ECU の通常総会が、2024 年 6 月 29 日(土)に Web 会議形式で開催され、次の議案が審議されました。

- ・ 第 1 号議案 令和 5 年度事業報告、
- ・ 第 2 号議案 令和 5 年度収支決算、・ 監査報告
- ・ 第 3 号議案 令和 6 年度事業計画(案)、
- ・ 第 4 号議案 令和 6 年度収支予算(案)
- ・ 第 5 号議案 定款の改正について、
- ・ 第 6 号議案 役員改選

我々地域協議会の全国連合組織である ECU は、当然のことであるが近年の少子・高齢化の進行の影響を受け、新規の EC 受験者の減少、会員組織率の低下に悩まされ、その対策と EC 制度の今後への展望を描くことが喫緊の課題となっています。このような状況にある今回の総会において、EC 千葉吉田昌弘理事長が専務理事に選任されました。全国の環境カウンセラーおよび地域協議会から期待されている大役への就任です。EC 千葉会員の皆さんにはこれまで以上のご支援・ご協力をお願いいたします。

広報 環境カウンセラーちば 第 63 号 (発行日 2024 年 8 月 1 日)

発行：特定非営利活動法人 環境カウンセラー千葉県協議会 (責任者：広報部長 山畑祐哉)
(編集担当：服部達雄)

事務局：〒273-0047 船橋市藤原 6-1-7

(E-mail) ecchiba_jimukyoku@ecchiba.sakura.ne.jp

(URL) <https://ecchiba.sakura.ne.jp>